

教養的科目「金沢学入門2」試験（2007.2.5 実施）問題

次の【設問1】～【設問8】から2問を選んで解答せよ。

【解答に関する注意】

1. 解答用紙は、1問ごとに1枚のみ使用すること。
2. 解答用紙の表だけで足りなければ裏を使用してよいが、1問に2枚以上使用してはいけない。
3. それぞれの解答用紙の教官名の欄には、選んだ問題を出題した教官名を書き、1行目には問題番号だけを書くこと。名前もそれぞれに忘れずに書くこと。
4. 答案提出の際は、学部・出題教官名ごとに分けて出すこと。
5. 受講者名簿（拡大版）の選択した教官名＝問題番号欄に○を付してから退室すること。記入し忘れたり、間違えたりした場合は、**無条件で不可**とするので、よく確認して記入すること。
6. 授業時間に配付した資料及びノート・下書きメモは参照してよい。

【設問1】 出題者 佐無田 光

産業連関の発展を軸にした内発型工業都市としての金沢経済の特徴と、1970年代以降におけるその変化の要因について説明しなさい。

【設問2】 出題者 宮西 幹男

金沢は、大きな天災や戦災を免れ歴史、伝統、文化が豊かな都市であると共に、近代的な空間の開発も進んでいます。地域の人々の利便性や快適性のためには講義にもあったように都市の開発は必要不可欠ですが、観光客を含めた来訪者にとっては昔ながらの街並みは魅力的な資源でもあります。”都市機能の向上のための開発”と”金沢の魅力としてのまちづくり”の両立について答えよ。

【設問3】 出題者 小林 史彦

金沢の歴史的環境の特徴について説明しなさい。さらに金沢で行われている歴史的環境を生かしたまちづくりに関する具体的な取り組み例について説明しなさい。

【設問4】 出題者 水野 昭憲

奥山の動物といわれたツキノワグマ、ニホンカモシカやニホンザルが金沢市の郊外にまで分布を拡げている。その要因となった環境の変化と、被害などの問題点を解説し、これらへの対処についてあなたの意見を述べてください。

【設問5】 出題者 塚脇 真二

海水準が現在よりも100m低かった最終氷期最大期には、日本海への暖流の流入が停止してしまい、金沢付近の気候は現在とは大きく異なるものだったと考えられている。では、もし現在、何らかの原因で暖流が日本海に流入しなくなったとすると、諸君らの金沢での生活はどのように変化するだろうか、あるいは変化せざるをえなくなるだろうか。「何らかの原因」を自分で設定したうえで、それによって変化するであろう生活について記述しなさい。

【設問6】 出題者 高原 利幸

近年金沢市は県庁の移転に伴い、西側（海側）の開発が盛んになってきているが、従来、金沢の市街地は山側に沿って発展してきた。この理由を地盤工学の観点から説明せよ。また、山側に沿っている市街地で発生しうる災害について、金沢に特徴的なものについて述べよ。

【設問7】 出題者 酒寄 淳史

金沢市民が身近な自然とふれあい、また自然を学ぶ拠点として、金沢市キゴ山自然学習館がキゴ山の麓（金沢市俵町）に開設されている。今、君がそこの職員になったと仮定して、学習館に来た小学校6年生達に戸室火山について解説することになったとする。どのようなことを児童に話すのか、その内容を述べよ。

【設問7】 出題者 眞鍋 知子

金沢市の地域コミュニティ活性化の取組を2つ例示し、それらの取組がどのようにコミュニティを活性化するかについて、その意義や問題点を比較しながら論じなさい。